

# 包括的公表

2023年4月～9月に報告された医療事故のうち、再発防止策が定まった包括的公表となる事例は下記の通りです。

No	発生場所	概 略	再発防止策
1	病棟	腹膜透析で <sup>※1</sup> ヘパリンナトリウムを誤って静脈内投与した。	・薬剤の使用方法与誤薬防止を看護教育に取り入れる。
2	手術室	全身麻酔からの覚醒のため <sup>※2</sup> ナロキソンを投与するところ、誤って <sup>※3</sup> フロセミドを投与した。	・薬剤トレイへ配置する際、薬剤ごとに分別して配置を行う。 ・手術で緊急薬剤使用時はダブルチェックを実施する。
3	GCU	医療的ケア児の沐浴後、気管カニューレ固定バンドと気切ガーゼの交換行った際に <sup>※4</sup> 気管切開チューブが逸脱した。	・看護職員への教育計画で、バンド・ガーゼ交換の動画視聴・マニュアル確認・シミュレーションによるチェックを実施する。 ・気管カニューレの固定バンドを外した状態でガーゼ交換を行わないことをベッドサイドへ掲示し、注意喚起を行う。
4	病棟	ベッド上安静で <sup>※5</sup> ギャッジアップ 30° の患者へ食事介助中に、食事が詰まり窒息状態となった。	・誤嚥リスクの高い患者の場合、吸引をすぐに実施できる環境を整える。
5	外来	眼科検査機器の <sup>※6</sup> プローブ部分を <sup>※7</sup> エタノール消毒したが、乾燥不足であったため角膜を損傷した。	・プローブ部分をエタノールで消毒後に、クリーンコットン(精製水)で拭き取る。
6	ICU	<sup>※8</sup> 人工呼吸器の温度センサーが、呼吸回路に巻き付いていたため一時的に取り外した。呼吸回路から空気が漏れたため換気できず <sup>※9</sup> SpO2 が低下した。	・小児の呼吸器管理に関して、人工呼吸器の回路を外す際は、医師へ連絡することを、医師と看護師で情報共有を行う。
7	病棟	<sup>※10</sup> ドレーン(ネラトンチューブ)の体内遺残が他院にて発見・摘出となった。	・挿入したドレーンのサイズと、抜去したことをカルテへ必ず記載する。 ・ドレーンを挿入した際は、固定または安全ピンを必ず付ける。 ・病棟看護師は、体内遺残が疑われる場合、医師へ CT 検査の提案を行う。
8	検査室	<sup>※11</sup> HER2 検査の組織ブロック検体を倉庫から取り出す際に、別の検体と取り違えた。	・マニュアルを箇条書きからフローチャート形式に変更する。 ・組織ブロック検体取り出しから標本提出まで、標本番号と氏名にてダブルチェックを行う。

No	発生場所	概 略	再発防止策
9	病棟	人工骨頭置換術後に腓骨神経麻痺発症した。 人工骨頭脱臼あり、麻酔下で整復術を行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・腓骨神経麻痺のリスクとなるケアについて再周知する。</li> <li>・内旋防止物品の整備を行い、予防に努める。</li> <li>・脱臼予防の介入項目を見直し、早期発見に務める。</li> </ul>
10	分娩室	経膈分娩時に使用したガーゼが膈内に遺残していることが、退院後に発覚した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩前はゴミ箱を空にし、分娩室の環境整備を行う。</li> <li>・ガーゼの管理方法を見直し、マニュアルへ明文化する。</li> </ul>

※1 ヘパリンナトリウム → 血液透析・人工心肺その他の体外循環装置使用時の血液凝固の防止に用いられる薬

※2 ナロキソン → 麻薬による呼吸抑制ならびに覚醒遅延の改善に用いる薬

※3 フロセミド → 体内の過剰な水分などを排泄し、むくみ(浮腫)などを改善させる薬

※4 気管切開チューブ → 気管切開後に気道確保、気管内分泌物などの吸引のため、気管内に挿入するチューブ

※5 ギャッジアップ → 病床ベッドの頭部側などに角度をつけて挙上すること

※6 プローブ → エコー機器の先端の患者の体に当てる部分

※7 エタノール → アルコールの一種で、手指・皮膚の消毒、医療機器の消毒に用いる薬

※8 人工呼吸器の温度センサー → 患者に送らせる吸気ガスの温度や加湿用水を入れる本体内の温度を常に測定し、加温加湿器の温度異常を知らせるもの

※9 SpO2 → 酸素飽和度

※10 ドレーン(ネラトンチューブ) → 体腔内に溜まった水分、血液、リンパ液、膿瘍などを体外に排出するために用い、先端が鋭くない管のこと

※11 HER2 → 細胞膜に局在する受容体タンパクで、上皮細胞の増殖と分化に関わっている。その検査には、蛋白過剰発現をみる免疫組織化学染色法(IHC 法)と遺伝子増幅を見る(ISH 法)がある。